

年表 (※は「この頃」の意、 下線部は邪馬台国側の記事)

西 暦	日 本	中国・朝鮮半島	インド
BC 2400	(縄文時代中期) ※黄帝一門、蓬萊三島に渡来して海神と共に、那珂つ国建国 2300 那珂つ国王・海神王を兼ね、神国づくり・畑作に入れ込む 2000 ※三内丸山の大集落、衰退 (縄文時代後期) 1100 ※八ヶ岳近辺の縄文集落、衰退 1050 (縄文時代晩期)	※炎帝と黄帝、阪泉の野で決戦 ※黄帝、神国中国を興し、神国づくり ※五代天帝の舜、禹に帝位を譲る ※禹の兄・啓、神代と決別し夏王朝樹立 ※太伯、荊蛮の地に呉建国 ※周武王、殷を滅ぼし、周王朝樹立 紂王の叔父・箕子を朝鮮に策封 ※周公、二都による封建体制を布く ※韓祖の韓武子、魏祖の畢万、共に献帝(前 676~651)に仕える	※インダス文明、栄える インド・アーリア人、パンジャブ地方に侵入 ※ゾロアスター、天啓を受ける ※ペルシャ、インダス地方併吞
BC 494	480 ※太伯ら子孫、九州西北に渡来し、天之国建国 473 那珂つ国に取り入り、米作り・集落づくりを指導 403 ※那珂つ国、天之国を従え、東海・北陸辺りまで進出 334 327 ※越のオロチが襲来し、那珂(中)つ国を出雲に追放 宗像家、厳之国本家となって、一門を各地に策封 256 吉野ヶ里→後世の伊都国、奈良盆地→三輪氏、 230 摂津→小千氏、北陸→越オロチ(後世の越智氏) 221 北九州・瀬戸内沿岸・山陰・畿内・北陸・東海まで米作り拡大 (弥生時代の幕開け) 206 ※渡来した韓勢、天之国と組んで厳之国を滅ぼし、日高国建国 202 ※厳之国、宗像・遠賀川流域に引きこもり、天之国に従属 ※日高と天之国、倭王朝を共立して福岡平野に都す。 周公の政再現を図る。東進して近畿・東海まで支配	呉王夫差(太伯ら子孫)、越王勾践(夏王朝末裔)を会稽に降す ※孔子、没す 夫差、勾践に敗れて自決。呉、滅亡 ※晋から分裂する韓・魏・趙、諸侯に列す ※楚、越を滅ぼす 秦、周室を滅ぼす 韓を滅ぼす。韓人、流浪 魏・斉・燕を滅ぼす 秦始皇帝、中国統一 泰山で封禪 徐福を東海上の神仙三島に送る 秦、滅亡。秦の流民、朝鮮に流れる 劉邦(高祖)、漢朝を興し、皇帝に就く	※仏陀、没す ※マカダ国、ガンジス川流域統一 アレキサンダー王、侵入 ※マウリア王朝、興る ※アショーカ王、即位 ※アンドラ王朝、成立
BC 194	※漢王族、倭に流れ来て国東半島に豊国を賜る 110 ※厳一門の葦原家、中つ国・豊国と盟約し、豊葦原中つ国王朝樹立 福岡平野の早良・唐津・那珂近辺に都し、百余国を封建統治 108 ※吉野ヶ里の厳分家、福岡平野に打って出て、伊都国王朝樹立 豊葦原中つ国を出雲に追い払い、百余国を封建統治 91 漢に朝貢…「地理志」 神国づくり・儒教に沿った政に邁進	※燕の衛満、箕子朝鮮を乗っ取る ※朝鮮王の準、韓氏と語る 斉・秦の流民を馬韓や辰韓に入植 ※漢武帝、泰山で封禪。北ベトナム支配 衛氏朝鮮を倒し、楽浪郡設置 ※『漢書』地理志、「倭人、分かれて百余国。歳時を持って来り」 司馬遷の『史記』完成	マウリア王朝、滅亡
AD 8	25 ※天之国女帝の天常立、豊葦原中つ国の国常立と組んで伊都国を倒し、怡土に倭奴国王朝樹立。ついで天神に立つ 56 ※日高の高皇産靈、十握剣を賜って王朝守護。伊都国、古巢に戻る 57 国常立、後漢に遣いし、金印「漢委奴国王」・方格規矩鏡を授かる	王莽、漢を乗っ取り、「新」建国 光武帝、漢朝を再興 楽浪郡設置、北ベトナム支配 泰山で封禪 郊祭し、倭の使者に謁見 ※仏教、中国に伝来	クジャン朝、成立
AD 107	150 倭奴(倭面土)国王、後漢に朝貢し、生口 160 人を献上 ※三嶋鴨族の面足神、六代倭王に立ち、摂津三島に都す 三嶋流神国づくりに入れ込む 166 170 ※伊奘諾、七代倭王に立つ 黄帝の神国づくり・天竺の常世づくりに邁進 ※マガダ国王、伊奘諾に養子入りし、豊受皇太神・月神となる。 副都(唐古)・東方統治を任される。 184 ※三輪オロチと皇太神、反乱 伊奘諾の大妃伊奘冉を攝津で拉致し、出雲に連行 ※伊奘諾、播磨・攝津の磐石(伊和邑)を急襲 ※皇太神、出雲の月夜見国(黄泉国)で天下分け目の決戦に大勝 大倭に厳之国王朝(邪馬台国)を興し、倭王天照大神に立つ 唐古に都し、天竺流常世づくりに励む 水天神の位に就く。兄の天鹿兎山も、火天神に昇る ※伊奘諾・向津姫ら、日向に走る。蛭子、邪馬台国に預けられる ※向津姫、高千穂宮で日神の天照大御神に担がれる (邪馬台国/高天原の時代) 191 真経津鏡(八咫鏡)を天璽と定め、倭奴国王朝再現を模索 192 真心と徳を掲げ、天宮での政を實踐 ※素戔嗚、八俣のオロチ(天照大神・天鹿兎山の親子)退治	※蔡倫、紙發明 ※パルティア国安世高、大月氏国シルカセン、中国に仏教を伝える ローマ皇帝の使者、来訪 ※南朝鮮では馬韓、弁韓、辰韓が隆盛 ※マガダ王、天台山から出雲へ飛来 黄布の乱 ※日隈・天(厳)の一派、新羅を篡奪 ※素戔嗚、新羅に出奔 曹操(曹丕の父)、黄布青州軍を破り、30万の兵を得る。漢大將軍に就く	※アンドラ王朝、最盛期 ※クジャン朝カニシカ王、即位 ※マガダ国王、天台山へ
西 暦	日 本	中国・朝鮮半島	インド

200 204 208	<p>※大己貴、葦原中つ国を再建し、安芸・播磨に勢力拡大 新羅から襲来する天日槍(五十猛)軍を宍粟邑で撃破 越のオロチ族と盟約し、西と北から邪馬台国を執拗に攻める ※天照大神、妻の日神と組み、高皇産霊と銘打って高千穂宮に赴く ※天孫饒速日(初代垂仁)、大倭に天降ったが、急逝</p>	公孫氏、楽浪郡南方の帯方郡を開拓 呉、赤壁の戦いに大勝	
220 ~ 230 238 240 245 247 248	<p>※日神と高皇産霊、経津主らを出雲に遣り、大己貴を降す ※天孫火瓊杵、薩摩の笠沙(加世田市)に都し、日前国樹立 ※天照大神(高皇産霊)、天火明・大己貴を連れて帰国。 天照大神、大倭で急逝</p> <p>※天火明(二代垂仁)、大倭に日高見国を建国 →千葉県市原市惣社に移って東都を開き、関東~陸奥を統治</p> <p>※日神、素戔嗚らと共に大倭遷座し、纏向宮入り 巖之国王朝を天(巖)王朝に衣替えし、女王ヒミコに立つ 纏向に都し、祝いの八咫鏡(三角縁神獸鏡)を豪族に配布 仏陀の教える常世(石葺き古墳)づくりに取りかかる</p> <p>※畿内・東海の太氏と大倭家、銅鐸を一斉放棄 ※火瓊瓊杵、日向の西都市妻に都し、日前を妻国(投馬国)とも呼ぶ ※火瓊瓊杵の兄、火照(海幸彦)・火折・火スセリ、誕生 天火明(二代垂仁)の兄、蒼津別(火火出見)、誕生</p> <p>※ヒミコ、天火明・経津主・武甕槌を東国に遣り、常陸・陸奥を支配 ※天火明、東国に日高見国を建て、千葉県市原市に東都を開く ※火折、大倭に降臨し、蒼津別と名のる。天火明の兄蒼津別、妻母 狭穂姫と共に日向に天降り、火火出見(火折、山幸彦)と名のる ※火火出見(山幸彦)、海幸彦と争う</p> <p>十二月、ヒミコの大夫、明帝に見える</p> <p>※呉鏡、日前に伝来。赤烏元年(238 年)銘の呉鏡伝来→山梨県で出土 赤烏 5 年(242 年)・7 年(244 年)銘の呉鏡伝来→大阪府で出土</p> <p>魏帝の勅書・印綬・鏡(方格規矩鏡)百枚、ヒミコの手許に届く ※火瓊瓊杵、ヒミコと絶交。日前の軍勢、北進して邪馬台国軍と激戦 魏帝、帯方郡を通じて倭の大夫に黄幢を授与</p> <p>※天孫火明、ヒミコに叛く ※ヒミコ、火瓊瓊杵と和睦し、天火明・尾張勢を討つ ※天火明、常陸に遁走し、日高見国を建国 ※火明饒速日(海幸彦)、大倭に降臨し、饒速日・火明の家督相続 ※ヒミコ、倭姫らと伊勢に遷座。翌年、八十余で逝く。箸墓に眠る</p>	<p>曹丕、後漢献帝を廃し、魏王朝樹立 ※劉備、(蜀)漢王朝興す</p> <p>※孫権、呉建国</p> <p>孫権、皇帝と称し、漢と結盟。亶洲探索 遼東に兵一万を送るが、裏切られる 諸葛孔明、五丈原にて陣没 明帝、冬至の日に郊祭。 正月、司馬宣王に公孫氏征伐を下命</p> <p>帯方郡の太守、倭に使者を送る</p>	<p>※アンドラ王朝分裂</p> <p>※ペルシャにササン朝興り、パルティア王国滅ぶ</p> <p>※アンドラ王朝、滅亡 インド、分裂</p>
250 264 266 ~	<p>※火明饒速日(三代垂仁)、日本朝を開き、倭王に立つが、國中乱れる ヒミコの宗女トヨ(豊鍬入姫)を二代女王に立て、國中鎮まる 祝いの鉄剣を豪族に配布 土握剣を神璽として女王守護、三嶋流神国づくり(周濠つき古墳)に入れ込む</p> <p>※火瓊瓊杵逝去。火火出見、跡を継ぐ ※火火出見、高千穂宮(都城市/霧島市)で日神の政再現に励む 女王トヨ、晋に朝貢 ※火明饒速日、封禅して天神に昇る ※景行、倭王に就く。女王トヨ、逝去 ※倭迹迹日百襲姫、三代女王に立つ。氣息足姫(神功)、四代目に立つ ※景行、西南征夷將軍の彦狭嶋と共に熊襲征伐に赴くが、惨敗</p>	司馬炎が魏帝を廃し、晋を建国 晋武帝、十一月に倭から貢物を受ける 翌月冬至の日に郊祭し、倭の使節に謁見	
280 285 298 301 (辛酉年) 304 ~	<p>※景行、足掛け六年も抑留される。280 年代前半に日向から帰国 ※磐余彦、火火出見を襲名し、高千穂宮(宮崎市)で和玉に立つ 呉の鏡作り工を招き、葬送用八咫鏡(三角縁神獸鏡)を量産 ※仲哀、檀目に都し、神功・日本武・吉備津彦らと熊襲征伐に赴く ※磐余彦、日本を討つべく東征。北九州を席卷 女王神功・日本武・吉備津彦・竹内宿禰を味方に取り込む ※倭姫(倭迹迹姫)、五代女王に立つ ※磐余彦、神功に新羅征伐を下命。日本武、出雲征伐に向かう 吉備・出雲・播磨を攻略。戦死者の古墳に三角縁神獸鏡を埋納 ※大日本国の長スネ彦、降伏。饒速日の日本王朝瓦解 アビ彦、東北に走り、日本將軍と語る ※磐余彦、和の葬送儀礼でもって敵武將を黒塚古墳に埋葬 樞原宮の造営及び日本武に北伐下命 (大和朝廷の時代)</p> <p>磐余彦、神代と決別して大和朝廷を開き、初代天皇(神武)に即位 饒速日の兄・可美真手、物部氏となって海幸彦の誓約履行 ※饒速日、逝去。周濠を備える宝来(蓬莱)山古墳(奈良市)に眠る 田道間守、不老不死を叶えるミカンの木を西域から持ち帰る ※磐余彦、日神と高皇産霊の斎場(日向型桜井茶白山古墳)を鳥見山中に造営。郊祭して皇天二神を天に配し、皇祖・皇宗に奉る。 ※磐余彦、逝去。磐余地方の日向型メスリ山古墳に埋葬される</p>	晋、呉を滅ぼし中国を統一	田道間守、不老不死の仙薬を求めて西域に向かう
		以後、各地に古墳が造られ、磐余彦やヒミコの八咫鏡(共に三角縁神獸鏡)・魏帝鏡(方格規矩鏡)・鉄剣などが埋納される	